

平成 28～29（2016～2017）年
多摩市ツバメ調査報告書
-多摩市のツバメ 30 年の変遷-



令和 2（2020）年 3 月

多摩市ツバメ調査団

はじめに

ツバメは春になると南国より渡ってくる最も身近な鳥です。そして堂々と人の生活圏に入りこんで生活を営む唯一の野生動物でもあります。日本においては、ツバメはその訪れで春の訪れを知り、子孫繁栄や商売繁盛の縁起物として、あるいは田畑の害虫を食べる益鳥として、家や商店に巣を作るツバメと共生してきました。

残念な事に、長く続いてきた人とツバメの共生関係は危機にあります。環境の悪化にともなってツバメが減ったという情報を見ることが多くなり、ツバメを嫌ってその巣を落としたり、巣が作られないように妨害したりする人も増えてきました。

多摩市はツバメに縁のある地です。大正 8（1919）年、連光寺に農商務省鳥類実験場（現森林研究・整備機構森林総合研究所多摩森林科学園連光寺実験林）が開場し、昭和初期には、害虫駆除の観点から、地域でのツバメの調査や、イワツバメを長野県松本市から導入する等の取組をしていました。また、およそ 30 年前の昭和 61～62（1986～1987）年には、多摩市立複合施設・パルテノン多摩開館に向けて市民参加型でツバメ類の分布調査が行われました。このように 30 年前の比較可能な調査結果が残っているという事は、我々の生活する環境を比較する事ができる貴重な資料であり、当時調査した市民の方々からのかけがえのないプレゼントです。

しかし、それ以降ツバメに関する継続調査は行われていなかったことから、市民グループからツバメの現在の状況を知るための調査が要望され、平成 28（2016）年～平成 29（2017）年に、多摩市ツバメ調査団（多摩市、公益財団法人多摩市文化振興財団（パルテノン多摩）、各市民団体及び市民調査員）が結成され、市民参加型のツバメ類の分布調査が実施されました。本調査は、①生物多様性の保全にとりくむための基礎情報とする、②30 年前との多摩市の環境の変化と問題を明らかにする、③市民参加型で行う事により身近な生物に親しみ理解を深める、④身近な生き物であるツバメとの共生・環境の保全をすすめていく、という 4 つの目的で実施されました。さらに、この調査は、30 年後あるいは 100 年後の後世の人々に引き継ぐべき基礎資料とする事も目指しました。

49 名の市民調査員の熱心な現地調査の結果、多摩市のツバメは 30 年前と比較して、幸いにもあまり減少していない事がわかりました。特に多摩川と大栗川に囲まれた聖蹟桜ヶ丘駅周辺は、巣の密度の高いホットスポットである事がわかりました。人のライフスタイルの変化や人の動きに変化に伴って、30 年前とは営巣場所を大きく変化させている事も明らかになり、人とツバメの関係を表す非常に貴重な調査結果が得られました。一方、懸念事項として、人とツバメの関係の断絶が進みつつある事もわかってきました。

ツバメの巣の多い環境は、①自然環境が豊か、②人のにぎわいがある、③人の心が豊か、の三つの指標が揃った環境であると言えます。つまり、ツバメは人が暮らす理想的な環境の指標とも言えるでしょう。本調査の結果が、多摩市の生物多様性の保全行政に有効に活用され、多摩市での人とツバメの共生が末永く続く事、すなわち人が健康で幸せに暮らせる環境が続く事を切に願います。

熱心に調査をされた市民調査員の方々、聴き取り調査やアンケート調査に協力頂いた市民の方々、事務局を努められた多摩市環境政策課及びパルテノン多摩の皆様に、改めて御礼申し上げます。

令和 2(2020)年 3 月 16 日 ツバメの渡来を待ちながら
多摩市ツバメ調査団団長 渡辺仁

多摩市内ツバメ調査（2016・2017）報告書 ～多摩市のツバメ 30 年の変遷～

目次

本編

はじめに

1. 多摩市でのツバメ調査の目的と経緯	1
1-1 ツバメ調査実施までの経緯	1
1-2 ツバメ調査の目的	1
1-3 多摩市ツバメ調査団の発足と活動の経緯	1
2. 調査対象のツバメ類	1
2-1 ツバメ（ツバメ科）	1
2-2 コシアカツバメ（ツバメ科）	2
2-3 イワツバメ（ツバメ科）	2
2-4 ヒメアマツバメ（アマツバメ科）	2
3. 調査地域（多摩市）の概況	3
3-1 地形	3
3-2 気象	3
3-3 人口	3
3-4 土地利用等	3
4. 調査の手法	4
4-1 現地調査	4
4-2 アンケート調査	10
4-3 SNS 調査	10
5. 調査結果と考察・30 年の変化	12
5-1 ツバメ（ツバメ科）	12
5-2 コシアカツバメ（ツバメ科）	26
5-3 イワツバメ（ツバメ科）	30
5-4 ヒメアマツバメ（アマツバメ科）	37
6. ツバメとの共生に向けて	39
6-1 ツバメの指標する人間の理想郷	39
6-2 共生のための工夫	41
7. 今後の課題	43
7-1 さらなる調査結果の解析	43
7-2 モニタリング等の市民活動の継続	43
7-3 生物多様性地域戦略への展開	43
8. 参考・引用文献	44